



■令和元年度IT支援者養成研修 (この講座は終了しました)



1.目的

障害者のIT支援関係を担当する区市町村職員、障害者福祉センター、障害者就労支援センター等の地域支援者等を対象に、障害者IT支援のための研修を開催し、区市町村における障害者のIT利活用のための基盤を整備する。

2.対象者

- (1) 障害者のIT支援関連を担当する**東京都内**の区市町村の職員
- (2) 障害者のIT支援関連を担当する**東京都内**の地域支援者等
(障害者福祉センター、障害者就労支援センター、福祉施設の職員等)

3.研修内容

研修コース表

(1)コミュニケーションを支える

概要	コミュニケーション障害をカバーする会話補助的な支援技術（意思伝達装置を除く）	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションに困難を抱える障害について ・コミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習 (専用ツールとスマートフォン・タブレット等の活用例。実機体験) ・事例とポイント 	
コースの活用	<p>聴覚障害、発達障害、言語障害等によりコミュニケーションが困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。</p> <p>新しい使い方が次々と出てくるタブレットやスマートフォンの最新事情を知り、アプリの利用によってはそれらが支援機器となりうることを知る。</p>	
主に対象となる障害	聴覚障害、発達障害、言語障害 等	

(2)意思伝達を支えるコース

概要	意思の表出が困難な方のための意思伝達を中心とした支援技術	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・意思伝達に困難を抱える障害について ・意思伝達を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機の実機体験、スマートフォン・タブレット等の活用例、アプリの実機体験) ・事例とポイント 	
コースの活用	<p>脳血管障害の後遺症やALSの方々、意思伝達が困難になっている方の支援を、道具を通して考えるコース。</p> <p>自宅あるいは病院等で、生活のステップを支えていく際の資料ともなる。</p>	
主に対象となる障害	ALS、脳血管障害の後遺症等で、意思伝達、意思表出が難しい方	

(3)操作困難を支える

概要	物理的な操作に困難さを抱えるケースでの支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 操作困難を抱える障害について 操作困難を助ける支援技術のデモと演習(実機体験あり) (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの活用例) 事例とポイント
コースの活用	肢体不自由の方の困難さをケース別に考え、道具を通して支援技術を考えるコース。Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティを学び、操作特性を実機体験で知る。 就労支援の現場への情報提供にも。
主に対象となる障害	上肢障害(肢体不自由)

(4)見えない、見えづらいを支える

概要	視覚的な困難さを抱えるケースでの支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害について 弱視、全盲の方を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレット等の活用例) 事例とポイント
コースの活用	弱視や全盲の方の情報利用の困難さを実機体験を通して知り、支援を考えるコース。Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティや、専用ソフトなどを学ぶ。
主に対象となる障害	視覚障害(全盲、弱視)

(5)理解、認知、記憶を支える

概要	障害や疾病により、理解や認知、記憶等に困難さを抱えるケースの支援技術
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 理解、認知、記憶等に困難を抱える障害について 支援技術のデモと演習(実機体験あり) (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレット等の活用例) 事例とポイント
コースの活用	最新のテクノロジーだけでなく、アナログな道具も見直し、個別の困難さの解決を考えるコース。 活用事例を知り、地域で困難さを抱える方への情報提供に。
主に対象となる障害	発達障害、高次脳機能障害、知的障害、失語症等

•研修の特徴

上表の5つのコースから、地域の課題にあわせて必要とするテーマを選択する(1コースでも全コースでも受講可)。

多忙な業務の中で、喫緊の課題について学ぶことができる。

★IT支援を必要とする現場(用具給付、生活支援、就労支援、教育支援 等)を想定し、遭遇しがちな事例の検討を行う。

★タブレットやスマートフォンなど身近な機器で実現できる技術を中心に、実機体験を含め現場対応力を高める。

★授業ごとに最新リーフレットを配布。バインダー式で受講ごとに蓄積され、業務で活用できる便利な保存資料に。

4.研修日程

(1)コース1

7月5日(金)、7月12日(金)(研修内容は各日とも同じ) 午後1時~5時

(2)コース2

7月26日(金)、8月2日(金)(研修内容は各日とも同じ) 午後1時～5時

(3)コース3

8月9日(金)、8月23日(金)(研修内容は各日とも同じ) 午後1時～5時

(4)コース4

9月6日(金)、9月13日(金)(研修内容は各日とも同じ) 午後1時～5時

(5)コース5

9月20日(金)、9月27日(金)(研修内容は各日とも同じ) 午後1時～5時

5.定員

各コース10名程度

6.受講料

無料

7.申込方法

別紙「令和元年度障害者のIT支援者養成研修受講申込書」をFAX

8.申込について

申し込みの順に受け付け、1事業所からは1名の受講を基本とする

2名以上希望がある場合は補欠として受け付け、実施1週間前に空席がある場合に限り、センターで調整のうえ、受講できる場合がある

9.申込先及び講習会場

東京都障害者IT地域支援センター

【所在地】〒112-0006 文京区小日向4-1-6

東京都社会福祉保健医療研修センター1階

※講習会場は3階303演習室

【電話】03-6682-6308

【FAX】03-6686-1277

[戻る](#)

Copyright (C) 2004 Tokyo ITC All rights reserved.